

第二百九十七回 青葉会

平成二十二年十二月九日(木)

恒例師走寄席見物↓ 年忘れ句会
末廣亭昼の部↓ 丸紅一階レストラン「談話室」

〈選者〉

☆川合万里子先生

〈出席者〉

石川清 今井紀久男 小川恭延 小西弘子 豊田ゆたか 福島正明 山内天牛
伊賀山そらお 朱牟田恵洲 宮内規雄 渡邊盛雄

《互選句》

ゴシックは選者の天

三点

三味の音もジングルベルや小春寄席

万里子 (清・ゆ・正)

☆ 笑声に耳遠き知る暮の寄席

恭延 (万・ゆ・正)

☆ 夢買いの列に銀杏の落葉かな

盛雄 (万・恭・弘)

二点

☆ 年忘る身振り手振り小ゑん技

清 (紀・ゆ)

☆ 爆笑の世相めつた斬り暮の寄席

紀久男 (万・恭)

志ん生の出囃子ゆつたり暮の寄席

全 (恭・正)

紅葉散る夜明けの荒事西麻布

全 (弘・ゆ)

年の瀬や笑ひに飢へて末廣亭

全 (清・正)

☆ 紙切りの切り出(いざ)したり大晦日

恭延 (万・弘)

☆ 舳(もぎ)ひ杭(ぐい)黒く沈める近松忌

弘子 (万・天)

☆ 暖を取る心地にも似て冬の寄席

恵洲 (清・天)

☆ 種あかしして手品師の年忘れ

ゆたか (万・恭)

(正：年忘れは忘年会のことで、季語としてはどうか?)

満杯の堪忍袋年終る

正明 (紀・恭)

一点

紙切りの時雨はらりと相合傘

万里子 (弘)

☆ 雑念を忘れて寄席へ漱石忌

清 (天)

☆ 義歯直り年越し準備一つ済み

そらお (万)

☆ 師走寄席仇(あだ)な小円歌踊りをり

紀久男 (正)

☆ 大笑ひ小ゑんが終(し)める師走寄席

恭延 (万)

小円歌の女舞うけ暮の寄席

全 (ゆ)

ままごとのママの小言や青木の実

弘子 (天)

掛声も笑いも満ちて暮の寄席

ゆたか (清)

☆ 出囃子や奴踊りに年忘れ

全 (清)

☆ 笑いどる海老蔵咄師走寄席

全 (紀)

紐手品切り方間違へ年果つる

正明 (弘)

紅一点が踊る奴(やっこ)さん年の暮

全 (紀)

白鳥が末広亭に居る不思議

全 (紀)

一人食(ば)みどんぶり鉢の海鼠かな

規雄 (天)

料されて海鼠小鉢に海の色

全 (弘)

☆ 天ぷらのいもや店閉づ師走かな

天牛 (紀)

☆ 揺れる四季しめくくるかに石露の花

盛雄 (万)

来年度予定

正月四日(火) 吉例初芝居総見 新橋演舞場昼の部

一月二十七日(木) 初句会 午後六時〜九時 丸紅・談話室

二月二十四日(木) 全

三月二十四日(木) 全

▲当季雑詠各自五句。投句は二句

平成二十二年十二月句会

一、小惑星探査機「はやぶさ」しか明るい話題の見当たらない今年の極月。当会恒例の師走寄席見物は出演者番組を見比べて末廣亭「昼の部」。

世之介、喜多八、白鳥、万窓、文楽、喬太郎、小燕枝、小ゑんと古典・新作の人気嘶家。俗曲の小円歌、紙切りの正楽、懐メロ・アコーデオンの志げると粒揃いの色物。

開演間もなく客席埋る盛況。懐メロを共に唄ったり掛声飛び交うなど客の反応も良く高座も熱演続き、同じ上席の夜の部の不入りとえらい違いです。但し女性グループの笑い過ぎには閉口。

物真似の猫八が休演したのが唯一残念でしたが、ヴァラエティに富んだ番組・・・アクの強い演者も交りますが、トリの小ゑんの「水族館」（新・品川心中）に爆笑。皆さん大満足の総見でした。

二、忘年句会はいつもの丸紅・談話室。到着して30分で皆さん出句。いつも三句ですが忘年句会ですので五句迄OK。御覧のように紅一点の小円歌を詠んだものが圧倒的に多く次いで小ゑんと正楽となつております。見物されてない天牛さん弘子さん、投句の盛雄さんらは吟行では不利にも拘（かわら）ず結構得点されておられます。

先生からの栗と煎餅、弘子さんからの金沢・村上の和菓子（どら焼きと垣穂）、マニラの坪井憲さんからのラム酒TAN D U A Y（旨い！）を呼び水にどんどん注文。珍しく清酒が出ませんでした。（初めて？）

終了後、今年好成绩の正明さんへ落語カレンダー（志ん馬の寄贈）、進境著しい清さんへ歌舞伎座カレンダーを進呈、先生へもお礼をしました。後日孤舟さん（新俳句誌「爽樹」創刊号の編集追込中の由）寄贈の俳句カレンダーを萬緑で活躍された弘子さんに進呈。

三、年忘れ句会は早や目に終わりましたので第二部として初趣向の謎掛け。お題は世間を騒がせている『海老蔵』。酔余の座興ですので御笑覧願います。

海老蔵と掛けて

①・年越しそばと解へとく。

その心は…打たれつ放し（万里子）

②・消防士と解く。

その心は…階段を上り下りする。（恭延）

③・立派な御挨拶と解く。

その心は…これも皆に見せる芝居かな（天牛）

④・歌舞伎十八番と解く。

その心は…助けてと六回叫ぶ。（ゆたか）

⑤・冬の背広と解く。

その心は…何やら裏がある。（正明）

⑥・消炭と解く。

その心は…かつと燃える。（清）

⑦・付き合いの悪い人がついて行くと解く。

その心は…おごりでした。（弘子）

⑧・松竹株式会社と解く。

その心は…一蓮托生（紀久男）

第三部は恒例の皆様の十八番（おはこを披露して打上げとなりました）

四、当日の話題（一）前日の開戦記念日のマスコミ報道少なくジョン・レノン忌が大きく扱われていたこと（二）海老蔵事件のこと（事件当日のパーティに小生出席）（三）来春の300回記念のこと

4月28日向島の料亭で句会。5月下旬合同句集上梓

五、関係者近詠

存（ながし）へて「和氣満堂」の小春寄席

万里子

如何にせん蟬の歯ぎしり憂国忌

堂哉

クリスマス・シュートーレン一足先に食しけり

天牛

初雪の赤い花卉に溶けにけり

全

ジョン・レノンゆきそれからの寒さかな

弘子

酒癖の直らぬ海老蔵冬の雷（らい）

紀久男

在日二世の句集哀しき夜半の冬

恵洲

雪の信濃に帰郷の一茶終（つひ）の栖（すみか）でリラックス

恵洲

平成二十二年十二月十五日

〔NHKラジオ折込都々逸「雪吊り（ゆき・き・つ・り）」〕